

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|----------------|
| 事業所番号 | 1690900145 |
| 法人名 | 株式会社いろどり |
| 事業所名 | ケアサポートいろどり |
| 所在地 | 富山県小矢部市浅地583番地 |
| 自己評価作成日 | 令和3年12月20日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--|------------|-----------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 富山県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年1月24日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループ施設の統一の方針によりサービス基準を取り入れ、職員は「サービス基準」の具体的な指針に沿って利用者の支援を行っている。また「自分で出来る喜びを守るケア」を施設の方針に上げ、自立支援に向けた取り組みを行っている。自立支援の一環として学習療法や歩行練習、軽運動等を行っている。今は新型コロナウイルス感染症の為、ドライブ等の外出支援は出来ていないが、施設内でイベント毎に手作りおやつや装飾品等で季節を感じて頂けるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所のサービス方針「自分で出来る喜びを守るケア」は、定期的に確認する機会が確保され、職員間にも浸透している。代表者や管理者、職員間においても相談しやすい関係が構築されており、働きやすい環境であると感じている職員も多い。新型コロナウイルス感染症の影響で、面会や外出等に制限がある状況においても、利用者の日々の様子を、定期的に家族に伝える工夫を行っている。また、利用者へ処方された薬は職員が薬局まで取りに行く等、家族への負担を軽減する支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づいて、施設内でサービス基準を定め、「自分で出来る喜びを守るケア」に取り組んでいる。月1度開催されるフロア会議では、管理者を中心に職員間でサービス基準の見直しをすることで、統一した介助が出来るように努めている。 | 法人全体の理念(スローガン)を基に事業所のサービス方針を毎年見直し定めている。今年度は「自分で出来る喜びを守るケア」を掲げ、玄関、ユニット、事務所に掲示している。また、月1度のフロア会議(全員参加)でサービス方針を唱和して確認し、利用者の力を活かしたケアを実践できるようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルス感染症の関係で自治会等の行事には参加出来ていないが、自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に届ける事で近隣の人の関係性が出来ている。 | 自治会に加入しており、利用者と回覧板を地域に届けている。また、地域の駐在所には定期的に見守りをお願いしている。 コロナ禍で地域行事が中止になっているが、コロナ禍以前は、地域の寺から説法を聴く機会をつくったり、実習生を受け入れたりする機会をつくっていた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議時に地域の方に対して日頃行っている事や、研修等の報告をしていたが、新型コロナウイルス感染症の関係で本年度は行えていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルス感染症の関係で運営推進会議は行えていないが、日頃からの家族からの意見を職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。また、日々の取り組みや生活の様子などを紙面にまとめ、家族に送付している。 | コロナ禍前は自治会長や民生委員、駐在所、市職員、利用者家族に参加してもらい会議を行っていた。今年度は感染症の影響で会議は行えていないが、3カ月に1度、フロア会議の内容や事業所内の事故報告、ヒヤリハット、入居状況等を報告書にまとめ、市に提出している。 | コロナ禍であっても、市以外の会議参加者等とも、現状の共有や意見交換を図る方法を検討されることに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センターや居宅支援事業所等には月1度会報誌を持参し、情報交換を行っている。福祉課の窓口に出向いた時には様々な相談に乗って貰えるような関係性は出来ている。 | 月に1度、市の福祉課には事業所の活動をまとめた「いろどり新聞」を提出し、情報提供や相談ができるようにしている。また、市の連絡協議会に加入しており、会議等があれば参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止マニュアルに沿って、職員間で話し合いをしている。月1度サービス基準を見直す事で職員全体が共有し、身体拘束、言葉の拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う際は、家族に同意を得て実施している。 | 月1回のフロア会議及び3カ月に1度の委員会において、事業所のサービス方針に基づき「身体拘束をしないケア」について確認や指導を行っている。現在は行っていないが、やむを得ない状況により、家族に同意を得て一時的に拘束対応した事例がある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日常生活の中で、全職員が虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日頃より、サービス基準に沿って日常生活自立支援に意識的に取り組んでいる。また、管理者、職員で話し合い、出来るだけ利用者のニーズに合わせた支援ができるよう努力している。成年後見制度については、理解しているとは言えない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書や重要事項説明書に沿って口頭で説明し、疑問等があれば、わかりやすい説明を行うよう努力している。改定などによる利用料の変更についても書面を作成送付し、家族の理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に関しては、新型コロナウイルス感染症の関係で行えていないが、日頃から家族の意見・要望に関しては、その都度職員間で共有し、話し合いを行い反映するようにしている。 | 家族からの意見等は申し送り、職員で共有している。家族から、毎月発行の広報誌「いろどり」での事業所全体の様子に加え、利用者の様子も分かるようにしてほしいとの要望があり、利用者個人の写真も同封することになった。コロナ禍で利用者と家族の面会を制限しているが、面会の要望に応えるため、来年度には面会室を増設する予定にしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のフロア会議で管理者、リーダーを中心に職員の意見を聞きながら、話し合い利用者の状態の変化に応じた対応策を検討し、サービスの向上に努めている。また、意見・要望はその都度代表者に報告すると共に、リーダー会議を通じて、法人全体に周知している。 | 職員からの意見は、月1度のフロア会議や日常的に個別に確認する機会をつくっている。代表者も職員や管理者の意見を確認しており、事業所に必要な除湿器等の家電や、記録書類を保管する棚を購入する等、環境整備の改善に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、事業所に出入りした際は、職員とコミュニケーションを取りながら、日々の様子や状況を把握するように務めている。また、管理者から情報をこまめに聞き、個々の状況を把握すると共に場合によっては、面談を行なっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量を把握し、その職員に合った外部研修に参加する機会は増えてきた。また、施設内部研修を行い、職員のスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染症の関係で公な交流の場はないものの、管理者は他施設へ訪問したり、電話等で連絡を取り合い情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 管理者、ケアマネジャーが中心となって、入居前、入居後も本人と話し、不安や希望、またこれまでの暮らし方が把握できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 受付時より、家族の困っている事や不安な事を傾聴し、丁寧に説明を少しずつ理解して頂きながら、安心できる関係づくりができるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に利用者や家族の要望の把握に努め、可能な限り柔軟な対応を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者は、人生の大先輩であるという事を念頭に置いて、利用者主体の生活が送れるように努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に、利用者の日常の様子を伝えたり、書面で伝えたりと本人と家族の関係を大切にしている。利用者の病院受診については基本的に家族に依頼している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルス感染症状況に応じて、家族と馴染みの床屋に出かけたり、受診後に自宅に行かれ家族と過ごしたりしておられる。面会に関しては、面会制限、時間制限があり、ゆっくりと過ごして頂ける環境は整っていない。 | 家族と馴染みの床屋に行く機会や自宅で過ごす機会をつくってもらっている。コロナ禍で家族との面会は制限しているが、月に1度「いろどり新聞」や写真の送付、電話の取り次ぎや知人からの贈り物を届ける等、これまでの関係が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の交流や、レクリエーションを通じて利用者同士の交流を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後であっても、必要に応じて情報提供や相談に乗れる支援体制はできている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時にセンター方式(生活史シートや暮らしの情報シート)を家族に記入してもらい、これまでの生活史や暮らしの方向や好きな事、苦手な事を把握している。また、利用者とのコミュニケーションから得た情報は、記録に残し職員間で共有し、出来るだけ本人の希望に沿えるよう支援方法や生活を見直している。 | 利用者の入居前の生活歴等については家族に確認している。日常の様子や反応を職員間で共有し、一人ひとりに出来そうなこと等をフロア会議等で話し合う機会をつくっている。食欲が落ちている利用者には、要望に応じて、好きなふりかけや梅干を提供する等で対応した事例がある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時には家族にセンター方式(生活史シートや暮らしの情報シート)を記入してもらい、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握している。入居後は本人の思いや家族からの情報で、安心して暮らしができるように支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々のバイタル測定や排便の状態、食事量、水分量等を把握し、利用者が健康に過ごせるよう配慮している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のフロア会議で、利用者の現状について話し合っている。また日々の気づきなども収集しサービスに活かし、個々の状態に沿った生活が出来るよう努力している。 | 基本的には6カ月に1度介護計画を更新しており、各利用者の担当職員が1カ月に1度モニタリングを行い、フロア会議で共有を図っている。担当者会議は、ケアマネジャー、家族、看護師、管理者、担当職員で行っている。 | モニタリングやフロア会議の記録だけでなく、担当者会議の記録の整備も検討されることに期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活記の記録をとり、職員間で共有している。また担当職員のモニタリングにより、その都度介護計画を見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 基本的には外出や病院受診等は家族の付き添いを依頼しているが、本人や家族の状況に応じて外出や通院の送迎等のサービスを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域内にある駐在所には、常々お願いをしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設の主治医との連携は構築されており、体調不良時には24時間対応可能な体制となっており、利用者は適切な医療をいつでも受けることができる。また、他科受診の際は、利用者や家族の状況によって通院支援をしている。 | 協力医による月2回の訪問診療に加え、24時間診察や指示を受けられる体制となっている。協力医以外で受診が必要なケースについては、利用者の状態等に応じて送迎や同行の支援を行っている。訪問診療や受診の際には、利用者の状態を書面で医師に伝え、診察の結果を家族に案内している。また、処方された薬に関しては職員が薬局まで取りに行く支援も行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設内に看護師が配置されており、利用者に体調の変化が見られた時は、看護師に相談したり、主治医と連携し指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力医療機関の地域連携室にADL基本情報を提供したり、入院中の現状等の情報を交換しながら連携を取り、利用者が早期に退院出来るよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りについての体制はまだ整っておらず、契約時には看取りは行わない方針であることは、契約書に記載されており、さらに口頭でも説明をし理解を得ている。また、利用者の心身の状態の変化時には、主治医、家族と話し合い、本人や家族の意向に沿った支援に努めている。 | 利用契約時に基本的には看取りは行わない方針であること、また、医療処置等が伴わない限りは重度化には対応する方針としていることを説明し、同意を得ている。医療処置等が必要な状態になった際には、対応可能な医療機関を紹介する等を行っている。将来的には看取りを行う体制を目指しており、外部研修受講等の準備を進めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設管理者、防火管理者による急変時の対応や火災の初期対応等の内部研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設内で利用者を交えての小規模避難訓練は行っているが、消防署協力の大規模避難訓練は行っていない。 | 今年度は、日中の火災を想定した避難訓練、職員参加の消火訓練を行っている。水や非常食など災害時の備蓄品は確保している。 | 消防計画書は提出されているが、計画通りに訓練等が実施できるよう、また、地域との協力体制の構築や、火災以外の災害についての避難計画及び事業継続計画を整備されることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 施設の理念に基づいたサービス基準に沿って、利用者を尊重し、プライバシーを損ねないケアを意識して行っている。月1回のフロア会議でサービス基準を見直し、職員全体に周知理解を得ている。また、不適切な言葉掛けが見られた時はその都度注意し合っている。 | 月1回のフロア会議で事業所のサービス方針を確認する機会を持ち、利用者の意向を尊重し、嫌なことは無理強いしないよう留意している。プライバシーの配慮として、利用者の排泄中、職員はトイレから出ることや、居室に入る際は、事前に利用者を確認したりノックを行ったりする対応を日常的に指導している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常日頃から、利用者の言葉や思い、希望に耳を傾け自己決定できるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員中心の生活にならないように、利用者一人ひとりのペースを大切にし、利用者の希望に沿った生活リズムを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしい身だしなみができるよう、本人の希望を聞きカット等の対応を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者、職員が共に食事をする事で、利用者の状態の変化等に対応でき、利用者一人ひとりの機能に合わせた食事形態を考えている。また、準備や片付けを一緒にすることで残存機能を把握し自立支援に心がけている。 | 食材は業者に委託して、調理は手作りで行っている。利用者には皮むきや味見等の下準備や盛り付け、下膳、茶碗拭きなどそれぞれに出来ることを手伝ってもらっている。利用者の嚥下や口腔機能等の状態に合わせた形態で食事を提供している。利用者の希望を確認して、おはぎやホットケーキ等のおやつと一緒に作る機会もつくっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食ごとの食事量、水分摂取量は記録して把握している。食事量、水分量の少ない利用者には、水分摂取量を1日1350ccを目安に摂取できるように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録を付け、利用者の排泄パターンを把握している。月1回行われるフロア会議では、利用者の状態をアセスメントし、一人ひとりに応じた対応を行っている。 | 排泄記録及び日常生活の記録はタブレットパソコンで記録し、水分量や排泄パターンを把握、確認できるようになっている。自立の方は見守り、必要な方には声かけをしている。基本的に日中はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間、移動に課題がある方はポータブルトイレで対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日適度な運動を促したり、排泄記録で毎日の排便状態を確認し水分摂取の確保に努めている。また、下剤の使用に関しては、主治医と連携を取り、アドバイスを受けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の体調等を見ながら、希望や状況に合わせて入浴できるよう柔軟な対応をしている。また、入浴時は、職員一人対利用者一人での対応でコミュニケーションを図りながら、楽しんで入浴してもらえよう支援している。 | 基本的には、利用者には週2回、月～土の午前中に入浴してもらっている。希望があれば週3回の対応や、気分が向かない方には、曜日や時間を変更したり、同性の職員が対応したりする等、柔軟に対応している。利用者とは1対1で関わる貴重な場として、入浴中は会話を楽しんでもらえるよう関わっている。利用者の状態に応じて入浴できるよう、リフト設備も備えられている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 今までの生活習慣と本人の希望を大切に、一人ひとりのペースに合わせて休息したり、入眠できるよう支援したりしている。また、居室の環境(明暗、室温等)にも十分に配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が薬の内容(目的、用量、用法、副作用)を把握できるよう、薬情報を個人ファイルに整理し、常に確認できるようにしている。また、投薬時には職員間での二重確認、飲み込み確認をする等の配慮を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自立支援の意識の元で、自分で出来る事に達成感を感じられるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、家族の協力の元、行きつけの床屋に行きついたり、墓参り、選挙等の外出に柔軟な対応をしたりしている。また、近所に散歩に出かけたり、施設内テラスで日光浴をしながらおやつを頂いたりしている。 | 事業所の周りには田畑が広がっており、天候の良い日には近隣に散歩に出かけている。また、季節によって花見ドライブに出かけている。家族の協力でも墓参りや選挙投票に出かける機会もある。事業所のテラスや畑に出て日光浴をしながら、お茶を楽しむ機会をつくることもしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金品の持ち込みは、遠慮して頂いている。買い物等の希望があれば、家族に連絡し持ってきて頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば、職員と共に利用できるよう支援している。家族や大切な人の電話や手紙は利用者に取次ぎをしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアには、季節を感じて貰えるよう、季節のイベントの掲示をしている。また、ゆったりと外を見て過ごして頂けるように窓側にソファを設置している。加湿器を設置し、乾燥や感染防止に努めている。 | フロアにはテーブル、ソファ、テレビ等が間隔広く、寛げるよう配置している。また、壁には季節を感じる装飾や利用者の習字等の作品が掲示されている。共用空間の清掃は、利用者にも役割を担ってもらっており、換気や湿度調整にも留意されている。コロナ禍でも面会できるよう、玄関には大きなアクリル板を設置している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースでは、一人用の椅子やソファを置き、一人で過ごしたり、気の合った利用者同士や職員と会話をしたりしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室内には、馴染みの物品を持ってきて頂き、居心地よく安心して過ごして頂けるよう支援している。 | エアコン、ベッド以外の家具や家電、馴染みのあるもの等は、希望に応じて自由に持ち込んでもらっている。また、個人的に新聞を取りたい方、衣類の整理が必要な方等々、一人ひとりの要望や状態に応じた支援を行っている。日常的に清掃も行われており、清潔感を感じる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人に合った生活が出来るよう、施設全体がバリアフリーとなっている。また、個々の能力にあった支援ができるよう努力している。 | | |

2 目標達成計画

事業所名 ケアサポートいろどり

作成日：令和 4年 2月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--------------|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 地域との協力の体制と構築 | 自治会長はじめ民生委員、駐在所と小まめに情報交換をして、協力を得れるようにする。 | 定期的に駐在所、自治会長、民生委員等から災害時に協力を得れるように情報交換をする。 | 6ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。